

# 米倉教公の週間為替市場見通し

3/14 日週号

ドル/円予想レンジ 111.00 - 115.00 円

## 『今週の目玉は日米金融政策会合！』

### ■前週の市場動向

前週のドル/円の週足では、2週連続下影陰線で終了した。また、終始方向感のないもみ合い相場となった。週初は日本株が下落したことで、ドル売り・円買いが優勢となった。翌8日も日米株価が下落したほか、米長期金利が低下したことで112.40円まで下落した。翌9日もドル売り・円買いの流れが引き継がれ一時112.20円まで下げたが、1日の112.13円の安値が意識された。その後、米株価が上昇に転じたことや、米10年物国債入札が『不調』だったことで米長期金利が上昇とともに下値を切り上げた。10日は注目されていたECB定例理事会でサプライズ的な追加緩和が決定したことを受けて、一時114.44円まで上昇したが、ドラギECB総裁の『利下げ打ち止め』ととれる発言後、株価が下落しリスク回避の円高が進み112.60円まで下げ足を速めた。週末は日経平均株価が上昇したことや、米国株高・米長期金利上昇で113.78円まで持ち直して引けた。

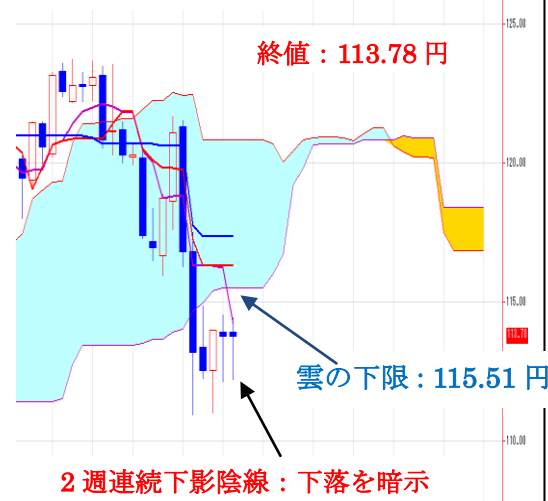
### ■今週の注目点：今週の注目日は日米金融政策会合

今週は14-15日に日銀政策決定会合、15-16日にFOMC（連邦公開市場委員会）が開催される。今回の日銀政策決定会合では、当面はマイナス金利の導入効果を見極める時期と見られ、現状維持が決定されると予想される。日銀が緩和見送りとなっても、先行きの財政政策による景気対策期待により過度な株安・円高歯止めがかかる余地がある。一方で、FOMCでは、直近の米経済指標で、強弱入交じる結果となっていることや、世界的に金融市場の不安定さが残っている。そのため、3月利上げは市場では見送られる見通しと見ている。市場の注目度は、むしろ声明文の内容やイエレンFRB議長の会見内容から4月や6月の追加利上げ時期を探ることになる。また、周人銀行総裁が、全人代で稀となる講演を行い、2016年の金融政策構想を発表する予定。引き続き人民元持続的な下落はないとの政府方針を表現する見通し。

### ■テクニカル的な見解

3月8日付のシカゴIMM投機筋の対米ドルの差し引き持ち高で、円は前週の+59,625から+64,333へとさらに円の買い持ちが増加し、2008年3月以来で最大となった。前週は週足で2週連続の下影陰線（下位に出た場合はやや慎重に）となり、下落を暗示するロウソク足となった。ただ、2月3日以降25日線（113.46円）の下方で推移していたが、週末には25日線上抜けしてきている。上抜けするようだと上値を試す展開になりやすい。さらに、高値抵抗帯となっている114.45-55円を上抜けすると、ダブルボトムのネックラインとなる2月16日の高値114.87円を目指す展開となる。ただ、週足の一目均衡表の雲の下限115.51円が意識される。一方で、下値の目途は113円維持や1日の安値112.13円、2月24日の安値111.03円や2月11日の安値110.96円となる。今週も原油価格・株価・日米金利差など変動しやすいイベントが多く、乱高下する可能性が高くレンジ相場での仕掛けが中心となりそうだ。

ドル/円：週足



### ★先週の気になる出来事

ECB定例理事会で『ドラギバズーカ砲』がさく裂したかに見えた内容であった。しかし、ドラギ総裁の『利下げ打ち止め』宣言発言で、一転市場はリスク回避の動きとなった。本人に訊かなければ分からないが、この発言が『誤算』だったのか、それとも『確信犯』だったのかである。個人的には確信犯であったと思う。上海G20声明で『通貨安競争の回避』が盛り込んでいることへの配慮ではないだろうか。ドラギ総裁は『肉を切らして、骨を断つ』戦略だったのではないかと思う。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

#### 【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

#### 【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

#### 【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

#### 【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

#### 【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

#### 【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

#### 【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

#### 【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。